

# 生き方部会だより

Vol. 59

2016. 5. 23

文責：古川亜希子

(事務局長)

## 2016年度もよろしくお祈りします

今年度も、生き方部会は、第1分科会（ボランティア教育）と第2分科会（コミュニケーション）の2分科会で行います。今年度は、128名の先生方に登録いただき、この部会に多くの関心が寄せられていることに感謝し、実りある部会となるように部会運営に努めたいと考えております。

今年は2年次研究の2年目となります。昨年の研究をもとに、実践レポートの交流を考えています。レポートの提出にご協力お願いいたします。

運営にあたっては、昨年ご参加いただいた先生方のご意見・ご感想を参考にさせていただきました。今年度も、役員中心に研究協議会の開催に向けて準備を進めていきます。部会員のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

部長 近藤真司

### 今年度の役員紹介

役職	氏名	学校名	役職	氏名	学校名
部長	近藤 真司	(恵み野旭小学校)	事務局員	内田 慶子	(花川小学校)
副部長	樋渡 真紀	(江別第二中学校)		菅野 清徳	(石狩 双葉小学校)
事務局長	古川 亜希子	(生振小学校)	研究員	久保田 勝己	(北陽小学校)
事務局次長	平井 まどか	(樽川中学校)		深井 智仁	(厚田中学校)
				高嶋 聖子	(花川南小学校)

### 今年度の研究について

今年は2年研究の2年次目です。講演・実習のほかに各分科会でレポートの交流を行います。実践レポートを交流することで、会員の皆さんがすぐに活かせるアイデアや新しい知識を得ることができたらと思います。協議会後に、2年間の研究のまとめを行います。

#### 研究主題

「子どもたちが自己を見つめ、互いに認め合う心を育む教育はどうあるべきか」

#### 【第1分科会（ボランティア教育）】

研究内容：互いに思いあう心を育むボランティア教育の実践

討議の柱：障がいのある人もない人も一緒に楽しめるスポーツを通じて、子どもたちの生き方に反映できるボランティア教育について

実習：ディスクゴルフの実演（応用編）

レポート交流：レポートごとに発表してもらい、その後交流する予定です。

会場：江別市立江別第二中学校

## 【第2分科会（コミュニケーション）】

研究内容：自己実現を支援し、自他の生命を尊重する教育のあり方

討議の柱：コミュニケーション教育の効果的な手法、使い方について

講演：スクールカウンセラーの方に、すぐに実践できる日常的な技法や、児童生徒とのかかわり方についてお話していただく予定です。

レポート交流：小グループに分かれて、討議の柱に沿って交流します。

会場：江別市民会館

### レポートについて

昨年度からお知らせしている通り、**全員提出となっています**。共同研究による連名も可です。この場合、グループ交流で全員が話し合いに参加できるように、内容の把握をお願いします。

#### 1. 締切：7月8日（金）

2. 提出方法：データで下記アドレスにメール添付してください。データで提出できない場合は、原稿を事務局に郵送してください。

3. 様式：①用紙サイズはA4です（A3、B4の三つ折りはできません）。枚数制限はありません。

②フォントは自由です。文字数、行数の制限は特にありません。

③内容については第1、第2分科会で異なります。ご覧になって不明な点がありましたら事務局までご連絡ください。

#### 4. 提出先：02ikikata@gmail.com

事務局 石狩市立生振小学校 古川 亜希子

(〒061-3245 石狩市生振 375-1 石狩市立生振小学校)

**今後の部会だよりはホームページに掲載します(各校への郵送はしません)**。研究協議会に向けて、次回もう少し詳しくお知らせする予定です。次回は7月上旬を予定しています。

生き方部会ホームページ <http://www.sekikyoken.com/bukaiHP/k02ikikata/HOME.html>

## 第1分科会(ボランティア)様式

### 第1分科会（ボランティア）

【学校名】 ○○市立○○小・中学校

【氏名】 ○○ ○○（連名でも可）

1、昨年度の体験（ディスクゴルフ）の振り返り

2、児童・生徒への還元

3、ディスクゴルフ以外に取り組んでみたいユニバーサルスポーツについてのレポート  
(画像などを使ってまとめてもかまいません。)

## 第2分科会(コミュニケーション)様式

### 第2分科会(コミュニケーション)

○○市立○○小学校 ◆◆ ◆◆◆ △△ △△ □□ □□		} 学校単位の場合は 分科会員の連名で
ねらい	(例) 教師が意図的に働きかけることで、子ども同士が関わりをもつことの心地よさ、楽しさを感じられるようにする。	
内容	コミュニケーション 人間関係 カウンセリング	この3つの中から内容(テーマ)を選んで作成する(討議の柱をこの3つに絞ります)。昨年講演していただいた論駁法には限定しません。
方法	・上記の内容で、どのように取り組んだか分かるように記入する。 ・具体的物を使用したり、書籍を参考にした場合は参考として記入する。	
変容	・実践の前後での児童生徒の変容を記述する。 ・複数回とりくんだ場合は、その経過がわかるように記述する ・個別の事例を書くときは、個人が特定されないように配慮する(家庭の様子や児童の情報など、変容を説明する上で必要な場合は口頭でするなど)。	
成果と課題	・成果と課題を分けて記述する。とりくんでみて、子どもたちの成果(課題)でも、教師側の成果(課題)でもよい。  <b>【成果】</b>  <b>【課題】</b>	

#### レポート作成に関わって

1. 授業を行った場合は指導案でも可とする。
2. 事例検討ではなく、あくまでも実践を紹介するレポートとする。
3. 学校単位でも個人でのレポートでもよい。学校単位の場合は、全員がレポートの内容(とりくみの経過など)を把握して、グループ交流の際に学校のとりくみを紹介できるようにしておく(グループ交流では学校単位で一緒になるわけではありません)。
4. 児童生徒個人が特定されないように配慮する(イニシャルではなく、A、B、Cなど機械的に名前を付けるようにするなど)。判断に迷う場合は、各学校で検討したり、管理職に相談する。紙面に書くことはできないが伝えたい場合は、口頭で。レポート集として石狩管内部会員に配布、保管されることを念頭に作成する。